上毛

12 こうげ町広報 December 2014 VOL.110

CONTENTS

● 町の掲示板 …… 2
● 町の話題 …… 11
● know「農」 …… 14
● カルチャー …… 15
● 町の情報ひろば …… 16
● 素敵人 …… 18
● こうげマンが行く! …… 18

http://www.town.koge.lg.jp

特集 快適な生活のための水環境整備を目指して

12月の表紙

11月8日(土)、耶馬溪ダム湖畔で「耶馬の森林植樹の集い」が開催され、唐原小学校4年生12名が参加しました。

現在、中津市から北九州市までの日豊線沿線の市町約127万人の人たちが耶馬溪ダムと山国川からの「水」の恩恵を受けています。

このイベントは、下流域の方と耶馬溪ダムの地元の皆さんが運命共同意識を高め、「流域はひとつ」をスローガンに、命を育む水源である「耶馬の森林」を守り、豊潤な「水」を下流域の皆さんへ安定的・継続的に供給することを目的に毎年開催されているものです。

この日、唐原小学校の皆さんは、下流域代表として水の大切さとともに水の怖さを学習した成果発表を行いました。

町の花(春) 桜

町の花(秋) コスモス

町の木 梅

●編集・発行／上毛町役場企画情報課
●印刷／第一印刷株式会社
〒871-0992
福岡県築上郡上毛町大字垂水1321-1
TEL 0979(72)3111
FAX 0979(72)4664

人の動き

10月31日現在

●世帯数	3,141 (−2)
●男 性	3,746 (−4)
●女 性	4,165(−10)
●人 口	7,911(−14)
65歳以上	2,561 (−1) 32.4%
75歳以上	1,393 (−3) 17.6%

うち外国人

●人 口	26(±0)
●男 性	17(±0)
●女 性	9(±0)
●世帯数	23(±0)
	(うち混合世帯4)

参考

平成17年10月11日合併時

●人 口	8,499
●世帯数	3,057

ごみの量

10月31日現在

●可燃ごみ	135.49t (−7.73t)
●カン・ペットボトル	3.45t (−0.05t)
●びん	5.40t (−0.13t)
●古紙他	13.48t (−0.14t)
●可燃粗大	3.09t (−0.38t)
●不燃	6.21t (−2.80t)
●プラスチック製容器包装	1.60t (−0.67t)
●紙パック、白色トレイ	0.08t (±0.00t)

※( )内は前月増減

環境対応型植物油インキを使用しております。

こうげ KOGE absolute peach 素敵人

快適な生活のための水環境整備を目指して

まちの水道事業を支えてくださっているお二人を紹介します。

安枝 利勝さん
(原井)

原井簡易水道は、大平村時代から原井地区住民の命の水として大切に保護されています。現在4名が水道委員として2年間の任期で簡易水道を守っています。

水道委員の仕事は、施設の点検、配水池やろ過池の水位・汚れなどの点検そして毎日の水質の検査です。ろ過は2つのろ過池を交互に使用しており、配水池の水位が下がればろ過池の切り替えにより配水池の水位を確保します。その後、ろ過池の砂を取り替えます。また、5月と11月には水源地と配水施設内にある沈殿池の清掃を実施しています。

一番困るのは梅雨の大雨や台風です。沈殿池に流れ込む原水の汚れがひどくなり、ろ過池がすぐ目詰まりし配水池の水位が急激に下がるため、ろ過池の切替えが必要です。普段は月1回の切替えで済みますが、多いときには月に2～3回切り替えます。また、切替え後は施設の点検回数が増えます。大変なこともありますが原井地区住民の生活を考えれば水道の水を止めることはできません。都会から友人が来たときによく言うことは「ここの水は美味しい」ということです。私は「都会の水道と違って生活用水が流れ込んでいない山の自然の水だから」と自慢します。

さて、私が原井に帰った17年前、当時は水道の仕事ができる人は30人くらいいましたが、現在は20人ほどとなりました。当時、水源地の清掃の時には重たい発電機などの清掃道具を手に持って500mほどの山道を上り下りしていました。また、水源地の採水施設の中にある500個以上もあるろ過のための石を取り出し水洗いし、また戻すという厳しい仕事でした。現在は水源地まで道路ができ、そして石を洗う必要のないように施設が改修され仕事が楽になりました。高齢化をさけることは難しいですが、なんとか原井地区の命の水、そして美味しい水を原井地区の人々で守っていきたいと願っています。

古原 茂美さん
(安雲)

現在、上毛簡易水道の検針を担当しています。今年で12年目になります。毎月一回の検針ですが、始めた時は550件くらいだったのが、今では900件以上になりました。

検針員を始めたきっかけは、会社を辞めて1年くらいたった時に水道の検針をしてみないかという話があり「運動になるかな」と思って始めました。しかし、検針は月初めの1週間以内という期限があるため、件数が増えてくると自分に余裕がなくなり不安になったこともありました。最初それぞれの家とメーターボックスの位置を覚えるために役場の人と一緒に2ヶ月程度回りましたが、件数も多くてとても大変でした。その後からは地図を片手に持ち一人で検針をして回り、さらに2ヶ月かけてやっと地図なしで歩いて回れるようになりました。雨の日は大変でメーターボックス内に水が流れ込んで数字が見えないため、水をかきだしたりすることもありますし、どうしても見えない場合には晴れた日に行き直すこともあります。

水道使用量がいつもと比べて異常に多いときなどは、水漏れが疑われるので家の人に連絡したり、留守の時は役場の担当の方に報告して連絡をしてもらったりしています。各家庭でも月の途中一回でもメーターの確認をして数字の動きに注意してもらえればと思います。

最後に水道をご利用のご家庭にお願いです。スムーズな検針のためメーターボックスの上に物を置かないようご協力をお願いします。

こうげマンが行く!

赤穂浪士(あこうろうし) 礒貝十郎左衛門(いそがいじゅうろうざえもん)

宇野

礒貝家に残る十郎左衛門の遺品

①②③④ 打ち入りの際に身につけていた品。
⑤ たいへん酒好きだったと言われる大石内蔵助から贈られたもの。
⑥ 打ち入りの合図に使われた笛。カジカの鳴き声のような音がします。

●イラスト 絵本製作委員会 東みどりさん

上毛で語り継がれる赤穂浪士

みんなは「忠臣蔵(ちゅうしんぐら)」という物語で有名な元禄(げんろく)赤穂事件を知っているかな。1702年(元禄15年)12月14日、赤穂浪士47名が吉良上野介(きらこうずけのすけ)邸に討ち入り、主君(しゅくん)の仇(あだ)を討った事件なんだ。後日全員が切腹して、主の後を追うことになったんだけど、その時の赤穂浪士の一人、「礒貝十郎左衛門」の子孫で9代目にあたる礒貝良洋さんにお話を伺いに行ってきたよ。

1679年、礒貝家の三男として生まれ、14歳で赤穂藩主、浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)の小姓(こしょう)になったそうだよ。討ち入りの時は事前に屋敷の見取り図を手配したり、ろうそくで部屋や廊下を照らしたりしたんだって。礒貝家は十郎左衛門が独身で跡継ぎがいなかったため、お兄さんの末裔(まつえい)に当たる中津藩家臣、門六正次(もんろくまさつぐ)によって再興(さいこう)されたそうだよ。礒貝さんは「先祖が上毛町に来て100年以上になりますが、もし江戸に残っていたら、このような遺品は残っていなかったでしょう。きっと先祖も満足していると思います」と話していたよ。

毎年12月に「義志祭(ぎしさい)」を行い、遺品を公開して説明しているそうだよ。

十郎左衛門が打ち入りの時着ていた片身頃

9代目の礒貝良洋さん